

市指定文化財<天然記念物>

きくちがわ 菊池川のり

指定日 昭和41年4月15日

所在地 菊池市原 菊池溪谷内



川のりは、別称カワタケノリとも、スイゼンジノリともいわれ、日本特産の溪流産の緑藻類である。初め熊本市の水前寺付近で見られたからこう呼ばれるようになったもので、川のりは栃木県以南の太平洋に注ぐ大河川上流部の溪流に分布し、古くから食用として採取されてきた。幅0.5～4cm、長さ10～20cmの単細胞からなる葉状体で、扁平で薄い葉状体の基部は溪流中の岩石面に付着しており、海産のアオサに似ている。年中生育しているが、7～11月が最も多い。

江戸時代には細川藩から幕府への献上物になっていたが、現在は生育環境が破壊されてきたためその分布が激減し、環境省の絶滅危惧調査対象種となっている。県内でも菊池溪谷をはじめ、球磨郡山江村、八代市泉、阿蘇郡小国町の溪流で見られていたが殆ど絶滅し、現在ではごく限られた場所で見られなくなった。